

# DIGITABLE 第 39 回勉強会レポート

2010 年 10 月 16 日 於：森下文化センター 第一研修室



デジタルフォト基礎講座 6 「レイヤーと選択範囲」：高木大輔 講師  
参加者全員による “ライトニングトーク Vol.6” (持ち時間 5 分のショートトーク)  
Photoshop 研究講座 「モノクロをそのままに印刷する」：平野正志 講師

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME) <http://www.digitable.info>

## デジタルフォト基礎講座 6 「レイヤーと選択範囲」：高木大輔 講師

### 調整レイヤーとマスク

調整レイヤーを使った部分調整では、いかに効率よくマスクや選択範囲を描くことがカギになる。Photoshop を使って Draw (描画) をすることには不慣れな方が多いようで、『マスクや選択範囲の作り方の実際について解説して欲しい』とのリクエストがあったのでお応えする。

#### 1. グラデーションツール

調整レイヤーのマスク中でも簡単で、一番使用頻度も高い。単純な一方向のグラデは露出やライティングのムラに使えるし、グラデの透明度を変えながらの塗り重ねである程度複雑なマスクも作れる。円形のグラデは周辺光量やカブリのムラ取りに便利だ。

#### 2. ブラシツール

練習用に新規の白紙ファイルを作成する。大きさは各自のカメラの画像サイズに合わせるとよい。これは「〇〇 pixel のぼかしなどが画像の中でどのくらいの大きさになるか？」見当をつけていくためである。このブラシツールの感覚はゴミ消しやほくろ取りなどの「スポット修正」でもよく使うので感覚をつかんでおこう。

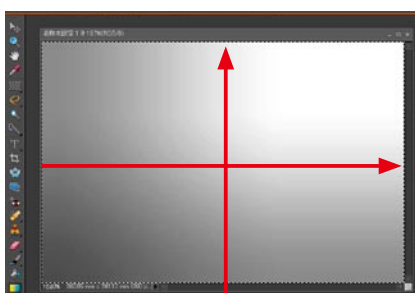
#### 3. 任意に選択範囲を描く [投げなわツール]

複雑な図形を描くには [投げなわツール] を使う。Alt を押しながらクリックすると投げなわの方式が変わるが、初心者には初期設定の単純な投げなわが使いやすい。投げなわが始点から一周したところで離すと図 101 のように全周が囲まれた “一筆書き” 状態が完成するが、この選択範囲は Photoshop 形式で保存することが出来る。

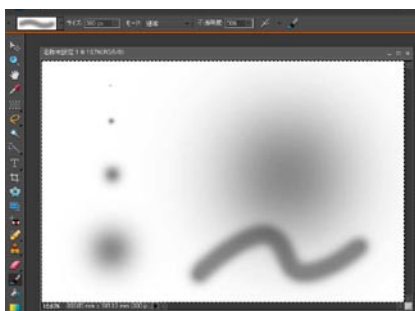
尚、多くの場合は [境界をぼかす] を利用して、選択範囲をぼかしてなだらかに適用するのがコツである。



解説する高木大輔講師



グラデーションツールでタテヨコにドラッグしたマスク



ブラシツールでの描画と大きさの関係 (1200 万画素画像)  
左上から 30、100、300、800、最大値の 2500pixel  
右下の波型は 300pixel でドラッグして描いている

#### 4. 自動選択ツール

選択範囲を簡単に指定するには自動選択ツールがある。これは任意の「許容値」を設定しながら画面上を適宜クリックして選択を重ねていく。あくまで簡易な手法だが、背景が白バックや空など背景と被写体のコントラストが離れている場合は便利に使える。

#### 5. クリッピングパス (Photoshop のみ)

選択範囲を業務的に使用する商品撮影などでは、クリッピングパスが多用される。これは保存された選択範囲をパスとして保存して、Illustrator や InDesign などのグラフィックソフトで貼り込む際、パス内の画像をのみを呼び出して使用することが出来る。

クリッピングパスの情報が付加された画像は、現在では JPEG などでも保持したまま保存が可能で、大量のデータの入稿時なども効率的になった。

いったんパスをクリッピングパスを作ってしまうと、図周囲をカットして使用することも出来るし、全く異なった背景にレイアウトソフト上で合成して貼り込むことも自由自在だ。商品撮影の伐りぬき用カット写真などでは、クリッピングパス付で納めることが主流であり、大量のクリッピングパス作業を専門に行う業者もある。

(授業ではこの後 調整実例が解説された)

\*\*\*\*\*

(コメントや意見の追加をお願いします)

### 参加者全員による “ライトニングトーク”

(持ち時間 5 分のショートトーク)

今月もいくつかの要旨をピックアップする。

YA 氏はライフワークである “モデル撮影” のモデル探しのサイトを紹介します。

渡欧中の AY 氏は今月もオーストリアのハルシュタット周辺の美しい風景を送ってくれた。(今月の 1 枚参照)

KS 氏はスペイン旅行での撮影報告とハイビジョン撮影の動画も披露。

ST 氏は常用している一眼レフおよびコンパクト、三機種で撮り比べた実感を報告。被写体と状況によってはコンパクトの有意性もあるようである。

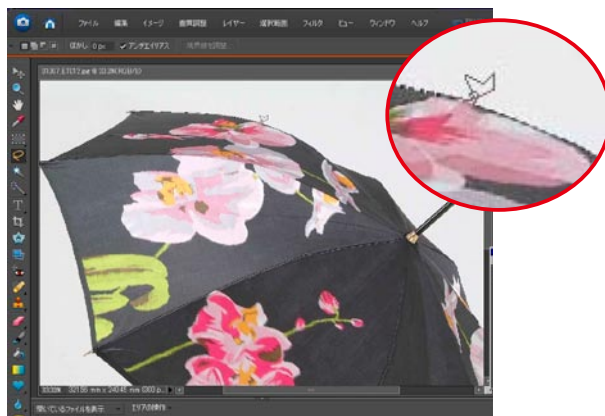
KM さんは東京スカイツリーの撮影スポットの報告。下町在住の地の利を生かした、さまざまな撮影穴場を報告してくれた。

JD 氏は韓国の結婚式事情の報告。隣国とはいえ様々な文化、風習の違いを興味深い写真とともに紹介してくれた。平野講師からは森山大道の初期の写真集 “Another Contry in New York” の紹介。

高木講師からは APA (社：日本広告写真家協会) で創立 50 周年を記念して制作中の写真集 “Made in Japan” の予告報告。 … 等々である。

\*\*\*\*\*

(コメントや意見の追加をお願いします)



投げなわツールで被写体のエッジ部分をトレースしていく



いったんクリッピングパスを作ってしまうと、周囲をカットして使用することも出来るし、図のように全く異なった背景にレイアウトソフト上で合成して貼り込むことも自由自在だ





## Photoshop 研究講座 平野正志 講師

### 「モノクロをそのままに印刷する」 (EPSON PX5500 を使用して)

モノクロに変換した画像は、PX5500 でモノクロ印刷できるが、モニターでの調整でのモノクロの明るさと比べると、印刷結果が明るく出てしまう問題が指摘された。この解決方法を探る。

プリンター設定の中の [カラー] にカラー、モノクロ、黒の選択がある。画像がモノクロに変換されているので、カラーでもモノクロ印刷されるし、モノクロ、黒でもモノクロ印刷されるが、なぜか出来上がった写真の濃度がモニターで調整した濃度と変わって印刷される。

「モノクロ写真」を選択できるのは写真用紙のみで、その他の画材用紙やスーパーファイン用紙。普通紙では選択できず、「カラー」か「黒」のみとなる。

カラーはカラーインクでモノクロを表現する。

モノクロ写真、黒は「カラー」の設定の中にある、「モノクロ写真」では色調を選択できるのでカラーインクを使用していることが分かる。

「黒」は色調調整ができないことから、黒グレーのインクだけを使用するのだろうと想像する。「黒」では明度コントラストのみ調整可能。「カラー」で色調の調整が可能になる。

「モノクロ」では純黒、温黒、冷黒、セピアなどプリセットが選択でき、かつ色調の微調整も可能だ。「黒」以外は黒やグレーのインクに他の色も加えてカラー印刷していることになる。

印刷では明度を調整できるので、カラーの印刷結果に近づけるように、印刷結果から明度をマイナスに調整してみる。度合いによって印刷の濃度が変わるので、数値を変えて印刷するモノクロ写真で黒の色調を維持しながら、詳細を設定することが一番良い結果を生むようだ。

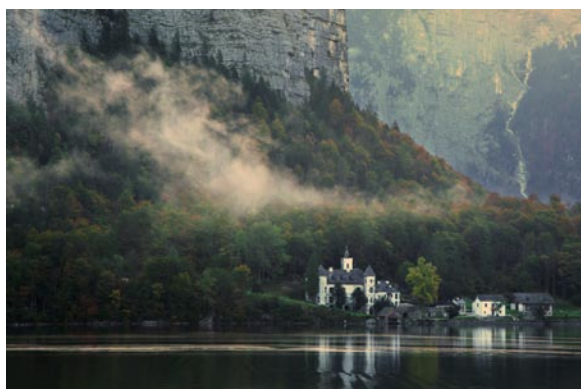
PX5500 がモノクロ写真を大きく意識して作られた機種ならではの感じがする。

\*\*\*\*\*

(コメントや意見の追加をお願いします)

DIGITABLE 写真技術勉強会 (HOME)

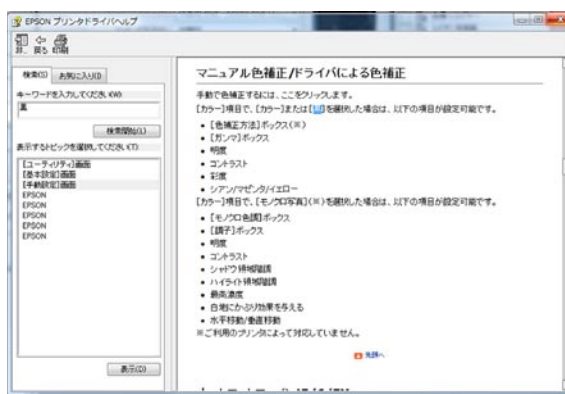
<http://www.digitable.info>



今月の1枚：渡欧中の安藤会員から送られた  
“ハルシュタット湖”の幻想的な風景



平野講師による授業風景



プリンター設定の中の [カラー] に  
カラー、モノクロ、黒の選択がある



上から順にカラー、モノクロ、黒